

# 海外向け企業誘致ホームページの 設計・構築業務委託仕様書

## 目次

1. 本業務の目的と内容 1
  - 1.1. 目的 1
  - 1.2. 対象者
  - 1.3. ホームページの概要
2. 本業務の内容 2
  - 2.1. 調達範囲 2
    - 2.1.1. ホームページ構築に係る調達範囲 2
  - 2.2. ホームページ構築方針 2
  - 2.3. 調達計画 2
    - 2.3.1. 委託期間 2
    - 2.3.2. 開発スケジュール 3
  - 2.4. ホームページ作成ガイドライン準拠 3
    - 2.4.1. 神戸市ホームページ作成ガイドライン 3
    - 2.4.2. 情報処理推進機構（IPA）資料への準拠 3
3. 機能要件 3
  - 3.1. ホームページ機能要件 3
  - 3.2. CMS の導入 4
  - 3.3. 言語対応 4
  - 3.4. ホームページ公開媒体 4
  - 3.5. 外部ホームページへのリンク 4
4. 非機能要件 4
  - 4.1. 前提条件 4
    - 4.1.1. ホームページ利用時間 5
    - 4.1.2. ホームページ利用者 5
    - 4.1.3. ホームページ利用規模 5
  - 4.2. 非機能要件 5
  - 4.3. ネットワーク 7
  - 4.4. データセンター 7
5. 業務委託要件 7
  - 5.1. プロジェクト管理要件 7

5.1.1.	プロジェクト計画書の策定	7
5.1.2.	プロジェクト管理	8
5.1.3.	プロジェクト体制	9
5.2.	テスト要件	9
5.2.1.	テスト方法	9
5.2.2.	テストデータ	9
5.3.	開発工程における成果物	10
5.3.1.	納品形態及び部数	10
5.4.2.	納入場所	10
6.	その他留意事項	10
7.1.	業務の引き継ぎに関する事項	10
7.2.	データ消去に関する事項	10
7.3.	著作権の取扱い	10
7.4.	情報セキュリティ不正に関する調査対応	10

#### 別紙

別紙1 ウェブアプリケーションのセキュリティ実装 チェックリスト

別紙2 ホームページサーバ等確認チェックリスト

別紙3 機能一覧(CMS)

別紙4 広報コンテンツ構成案

# 1. 本業務の目的とホームページの概要

## 1.1. 目的

神戸市では、海外からの外国・外資系企業、スタートアップ企業及び外国人起業家などの誘致に取り組んでいる。そのため、国際的なビジネス環境、「神戸医療産業都市」をはじめとする産業集積状況、内閣府「グローバル拠点都市」として選定されたスタートアップ・エコシステム、並びに進出企業・起業家に対する支援施策などの情報を、海外の企業等に訴求するよう英語で発信することが求められている。

本業務は、海外の企業や外国人起業家に対して、神戸のビジネス環境や魅力を発信するための英語ホームページの設計、構築を行うものである。

## 1.2. 対象者

ホームページの閲覧対象者は、海外の外国・外資系企業、スタートアップ企業、外国人起業家などとし、日本市場について英語での情報収集を行うことを想定している。一義的な対象地域は欧州と想定し、言語選択や情報発信の仕方については欧州の企業等に訴求する内容となるよう留意すること。

## 1.3. ホームページの概要

### 1.3.1. ドメイン

ホームページのタイトルは「Invest in Kobe」とし、ドメインはタイトルに適したものを神戸市と協議のうえで確定し、契約・管理すること。ドメインの所有名義は神戸市に帰属するものとし、契約変更やサーバ変更の事由などにより、ドメイン引継が生じた場合も、管理者移行出来るものとし、必要に応じて手続きを行うこととする。

### 1.3.2. 言語

本ホームページは英語で作成する。

自動翻訳ツール（英語からドイツ語、フランス語へ各々翻訳）を組み入れること。なお、入力による修正可能なツールとすること。

本市が提供するコンテンツの一部校正や新規作成が必要となる場合は、日本語の英訳ではなく、ネイティブによる英語ライティングが可能な体制を組むこと。

### 1.3.3. 掲載コンテンツ

掲載項目案は別紙4「コンテンツ一覧」の通り。ただし、海外の事例や露出内容の最適化を踏まえて、提案時に項目の追加・削除や構成アレンジを可とする。内容は、神戸市と協議の上、決定することとする。

設計図の中で新規作成が想定されるコンテンツの作成は本契約業務には含まないが、次年度予定するコンテンツ拡充において掲載が可能となるよう設計とすること。（想定されるコンテンツ拡充項目は別紙4に記載）

### 1.3.4. デザイン

本事業におけるホームページのデザインは、神戸市のスタートアップ・エコシステムのブランディング「Life-Tech Kobe」のブランドガイドラインに則って作成することとする。

（ブランドガイドラインは別途本市から提供するが、デザインイメージはLife-Tech Kobe ホームページ <https://life-techkobe.com> を参照すること）

分かりやすい文言や視覚的に理解しやすいデザインを用いること。

対象者が機能的便益と情緒的便益を感じる UI/UX 設計をすること。

## 2. 本業務の内容

### 2.1. 調達範囲

#### 2.1.1. ホームページ構築に係る調達範囲

本調達においては、本市がシステム利用にあたり必要となるすべての調達対象（ホームページ・ハードウェア・ソフトウェア・役務・運用・保守等）について、受託者がサービスとして提供することとする。本件における調達範囲を下記に示す。

区分	項目	特記事項
構築	海外向け企業誘致ホームページ構築に係る役務	コンテンツ一式（英語テキスト、写真、図などの掲載要素）は本市が提供する。

※本契約における調達範囲

構築（設計・開発）及びテストページの公開までを本契約における業務とする。

本契約は本市ホームページのドメイン名・SSL 証明書等の取得・管理経費も委託料に含めるものとする。なお、公開用ページの本格公開は令和5年度（7月頃予定）を予定している。

本市が当該サービス利用に係る費用（受託者が調達するレンタルサーバ等の利用料を含む）を受託者に委託費用として支払うため、本調達の契約においては、ハードウェア等のリース契約は発生しないものとする。また、調達するホームページの運用・保守期間は、構築後5年間を前提とすること。

ソフトウェアについては、利用者が問題なく利用できるよう、必要となるソフトウェアライセンスや、その他の使用許諾を得ることとし、ハードウェアに関しても、当該期間において使用可能な状態を維持すること。

### 2.2. ホームページ構築方針

本業務にて調達するホームページについて、以下に示す構築方針に準ずること。

要件	内容
構築方針	本ホームページは、オープン化（特定業者による技術に偏向していないもの）された製品・ソフトウェア等を用い、機能拡張性及び保守性の高いホームページとすること。 ホームページ構築後5年間は利用可能（サポートが行われる）な技術・言語を使用すること。
構築手法	品質確保、スケジュールの遵守が可能な構築手法であること。 他の構築業務において使用実績を有すること。
構築ソフトウェア	本システムの構築を遂行するために必要となるソフトウェアに関しては、受託者において準備すること。
ハードウェア	サーバ 受託者は本システムの運用に必要なサーバを調達し、受託者が用意するデータセンターに収容し、その維持管理を行うこと。

### 2.3. 調達計画

#### 2.3.1. 委託期間

- ・開発・設計に係る期間は、契約締結日（令和5年(2023年)1月下旬）から納品検査日（令和5年(2023年)3月31日）まで。

### 2.3.2. 開発スケジュール

スケジュールは下記のように想定しているが、円滑にシステムの運用を開始できるよう配慮し、全工程を通じて無理のないスケジュール及び体制を提案すること。

令和4年(2022年)11月～ 公募・プロポーザル  
 令和5年(2023年)1月下旬 契約・キックオフ  
 令和5年(2023年)1月下旬～ 設計開発  
 令和5年(2023年)3月中旬 テストページ公開  
 令和5年(2023年)3月末 検収

**【参考】**

令和5年(2023年)5月～ コンテンツ拡充  
 令和5年(2023年)7月頃～ 本公開（以降、コンテンツ更新）

区分	令和4年度					令和5年度				
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月～
			★契約		★テストページ					★本公開
設計 開発	公募 プロポーザル		設計・開発				コンテンツ拡充			更新
運用	運用・保守									

※令和5年以降は参考で、変更の可能性あり。

## 2.4. ホームページ作成ガイドライン準拠

### 2.4.1. 神戸市ホームページ作成ガイドライン

ホームページの開発にあたっては、「神戸市ホームページ作成事業者用ガイドライン」に準拠すること。

### 2.4.2. 情報処理推進機構（IPA）資料への準拠

本市ガイドラインに加え、IPAが示すチェックリスト（別紙1及び別紙2）の項目全てについて対応していること。

## 3. 機能要件

### 3.1. ホームページ機能要件

本ホームページが備えるべき機能要件を以下に示す。

分類	要件	内容
基本	動作環境	「神戸市ホームページ作成事業者用ガイドライン」6.2.3)に記載の動作を保証すること。
基本	管理者権限	管理者を設定する機能を有すること。また、管理者のみが本ホームページの操作ができる等、ホームページ管理のための機能が利用できるような制限できること。
画面	パンくずリスト 対応	現在閲覧しているWeb ページがホームページ内でどのような位置にあるのかについて、階層表示できること。

分類	要件	内容
その他	アクセス解析	Google タグマネージャーを導入し、必要な設定を行うこと。導入した GTM に、本市が指定する Google アカウントを管理者として設定すること。 Google アナリティクスを用いてアクセス解析を実施すること。導入した Google アナリティクスに、本市が指定する Google アカウントを管理者として設定すること。

### 3.2. CMS の導入

本市職員がコンテンツの作成・編集等を実施するため CMS を導入すること。作成されるコンテンツは、テンプレート等によりフォーマットが統一されたもので、HTML の知識が必要なく、アクセシビリティに配慮されたページが作成できること。

### 3.3. 言語対応

本ホームページは英語で作成する。

自動翻訳ツール（英語からドイツ語、フランス語へ各々翻訳）を組み入れること。なお、入力による修正可能なツールとすること。

本市が提供するコンテンツの一部校正や新規作成が必要となる場合は、日本語の英訳ではなく、ネイティブによる英語ライティングが可能な体制を組むこと。

### 3.4. ホームページ公開媒体

「神戸市ホームページ作成事業者用ガイドライン」6.2.3)に記載の OS 及びブラウザでの閲覧を想定している。

表示サイズについては同ガイドライン 6.2.4)に記載の内容が基本とし、モバイル端末等マルチデバイスでの表示に対応できることとする。

なお、保守性の観点から、レスポンシブデザイン（ワンソース）で作成すること。

### 3.5. 外部ホームページへのリンク

① 本ホームページから、以下のホームページへのリンクを設定する。

- ・神戸市ホームページ (Global site)

<https://www.city.kobe.lg.jp/foreignlanguage/index.html>

- ・神戸医療産業都市ホームページ (英語)

<https://www.city.kobe.lg.jp/foreignlanguage/index.html>

- ・Life-Tech Kobe ホームページ (日本語)

<https://life-techkobe.com>

- ・その他、ホームページの構成上必要と認められる本市関連施策や県関連施策のホームページ

② 各種 SNS (Facebook, Twitter, Instagram, Linkedin 等) の Open Graph Protocol (OGP) を設定する。

## 4. 非機能要件

### 4.1. 前提条件

本業務において構築するホームページは、以下に示す前提条件を踏まえて非機能要件を満たすこと。

#### 4.1.1. ホームページ利用時間

システム利用時間は、原則として 24 時間 365 日とする。

なお、保守等により停止する必要がある場合は作業予定日の 5 営業日前までに本市に申し出ること。

#### 4.1.2. ホームページ利用者

本ホームページは広く公開するため、特段の利用者は特定しない。

#### 4.1.3. ホームページ利用規模

##### 4.1.3.1. ファイル規模

ホームページのファイル数、ファイルサイズ、データサイズは以下の通りである。

既存の海外向け企業誘致ホームページ（英語）に掲載するファイル規模の 1.5 倍程度とする。

ホームページリンク：<https://global.kobe-investment.jp/english/>

##### 4.1.3.2. アクセス数

ホームページのアクセス数／想定アクセス数は以下の通りである。

期間	累計アクセス数
1 年間（12 カ月）	目標 PV50,000

#### 4.2. 非機能要件

本業務にて構築するホームページは以下に示す要件を満たすこと。

要件	対象	内容
可用性	稼働率	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間のシステム稼働率は 99% を目標とすること。</li> </ul>
	冗長化	<ul style="list-style-type: none"> <li>サーバ障害等によるデータ消去・破壊のリスクを低減させるため、サーバ、記憶装置等を冗長化する機能を設けること。</li> <li>一部のハードウェアが故障しても、縮退運転が可能なハードウェア構成を設けること。</li> </ul>
	RPO (目標復旧地点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平常時、営業停止を伴う障害が発生した際には、障害発生地点（日次バックアップ+アーカイブからの復旧）までのデータ復旧を目的とすること。</li> </ul>
性能要件	オンラインレスポンスタイム	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインレスポンスタイムは、3 秒以内を目標とすること。なお、ネットワークの影響及び縮退運転時には除外とする。</li> </ul>
セキュリティ要件	セキュリティポリシー等	<ul style="list-style-type: none"> <li>本システムの構築・運用に際しては、「神戸市情報セキュリティポリシー」を遵守し、万全の対策を講じること。 <a href="https://www.city.kobe.lg.jp/a06814/shise/jore/yokou/0400/policy.html">https://www.city.kobe.lg.jp/a06814/shise/jore/yokou/0400/policy.html</a></li> </ul>
	機密性の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>庁内外からの不正な接続及び侵入、行政情報資産の漏えい、改ざん、消去、破壊、不正利用等を防止するための対策を講じること。</li> </ul>
	利用者の認証	<ul style="list-style-type: none"> <li>ID/パスワード等により利用者の識別を行う機能を設けること。</li> <li>システムへのアクセス制御を行う機能を設けること。</li> <li>アクセスを許可されたユーザーに対しての権限管理を行う機能を設けること。</li> </ul>

要件	対象	内容
	特権 ID	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 特権 ID（高いレベルの権限をもったシステム ID）は共有せず、当該 ID を用いるシステム管理者個人が特定できること。また、その ID やパスワードの設定・変更に係るルールを定めること</li> </ul>
	ウイルス対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ アンチウイルスソフトウェアを活用する等により、以下の不正プログラム対策を講じること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定時スキャン設定のみならず、個別ファイルをアクセスする都度スキャンが可能な機能を設けること。</li> <li>・ データ送受信時にウイルスチェックが可能な機能を有すること。</li> <li>・ 最新のエンジン及びパターンファイルの自動更新が可能な機能を有すること。</li> <li>・ 常時監視機能の設定が可能であること。</li> <li>・ 各機器へのエンジン及びパターンファイルの配布状況管理機能を有すること。</li> <li>・ ウィルス感染・検疫・駆除の一元監視機能を有すること。</li> <li>・ 検知時のアクションとして、システム管理者に対する通報と、ユーザーに対する通知が可能な機能を有すること。</li> </ul> </li> <li>➤ 提案するシステムは、ウイルスやマルウェア等に対する対策を講じること。</li> </ul>
	セキュリティレベルの維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 確保すべきセキュリティ実装の詳細に関しては、「別紙 1 ウェブアプリケーションのセキュリティ実装 チェックリスト」「別紙 2 ホームページサーバ等確認チェックリスト」にて提示するので、必要な対策を講じること。</li> </ul>
	暗号化	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 通信及び蓄積データに対して暗号化を行う機能を設けること。また、発信人の正当性を保証するための電子署名を行う機能を設けること。通信に必要な証明書等についても調達に含むこと。</li> <li>➤ 通信経路上の暗号化（SSL 暗号化通信）を行うこと。</li> <li>➤ 個人情報を含む等、機密性の高い情報を取り扱う場合、蓄積データ（データベース含む）や職員への通報経路を含め暗号化を行うこと。なお、暗号化の各機能や強度については、設計時に決定する。</li> </ul>
	ログ対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ アクセスログ、システム稼動ログ、障害時のシステム出力ログ及び障害対応記録等のログを取得できること。</li> <li>➤ 取得したログにより情報の漏えい、改ざん、消去、破壊等を検知できる機能を設けること。</li> <li>➤ ログは 1 年以上保存することとし、本市が要請した場合は直ちに指定されたログを提供すること。</li> </ul>
運用・保守性	バックアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 障害時等にシステムを復旧できるようなバックアップを実施すること。</li> <li>➤ 作成した Web サイトコンテンツファイル等関連データは、環境変更時（情報更新時）バックアップを取得すること。</li> </ul>
	世代管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ バックアップデータは業務上の必要性を加味した上で、複数世代で取得すること。</li> </ul>



要件	対象	内容
	復元	▶ RPO（目標復旧地点）までデータを復元できるよう構築すること。
	監視	▶ セキュリティ機能の稼働状況監視や、エラー監視を実行し、必要に応じて警告等を発する機能を設けること
使用性・ 効率性	アクセシビリティ 対応	▶ JISX8341-3:2010『高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第3部：ウェブコンテンツ』に定める「等級AA」に（一部）準拠すること。
	SEO 対応	▶ 利用者の多い検索エンジン（Google, Yahoo など欧米での利用が多いもの）において、Asia, Japan, market, kobe, invest, startup 等に関連するキーワードについて本市ホームページが上位に表示されるように対策を講ずること。

### 4.3. ネットワーク

Web サイトの更新等のために本市職員が管理画面（CMS）にアクセスする方式は、セキュリティ面を考慮し、以下の方式で提案をすること。なお、以下の方法以外に、本市にとってより有用な方式がある場合は、提案すること。

- ・ インターネット回線を経由する場合、管理画面へのログインには ID とパスワードによる制限を掛けると共に、事業者側での特定のグローバル IP アドレス指定によるアクセス制限等を実装し、不要なアクセスを防止すること。
- ・ レンタルサーバを用いる場合、外部セグメントからサーバが設置されているセグメントに対して、適切なアクセス制御が可能なネットワーク構成を取ること。
- ・ ルータ又はファイアウォール等でのフィルタリング設定によって、未使用又は不必要なポート／プロトコル／不正な IP アドレスによる接続を排除すること。また、Web サイトを更新できる管理者用端末を限定し、当該端末以外からの Web サイト更新等に関する接続は排除すること。

### 4.4. データセンター

本システムで使用するハードウェア、ソフトウェアの設置場所等については、日本データセンター協会が制定するデータセンターファシリティスタンダードのティア3相当の基準を満たした日本国内のデータセンターとすること。

## 5. 業務委託要件

### 5.1. プロジェクト管理要件

#### 5.1.1. プロジェクト計画書の策定

受託者は、本書に基づき、本システムの構築における具体的な体制、スケジュール、プロジェクト管理方針、プロジェクト管理方法等を含んだプロジェクト計画書を作成すること。

### 5.1.2. プロジェクト管理

管理項目	管理内容
進捗管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ プロジェクト計画策定時に定義したスケジュールに基づく進捗管理を実施すること。</li> <li>➤ 受託者は、実施スケジュールと状況の差を把握し、進捗の自己評価を実施し、定例報告会において本市に報告すること。</li> <li>➤ 進捗及び進捗管理に是正の必要がある場合は、その原因及び対応策を明らかにし、速やかに是正の計画を策定すること。</li> </ul>
品質管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ プロジェクト計画策定時に定義した品質管理方針に基づく品質管理を実施すること。</li> <li>➤ 受託者は、品質基準と状況の差を把握し、品質の自己評価を実施し、各工程完了報告会において本市に報告すること。</li> <li>➤ 品質及び品質管理に是正の必要がある場合は、その原因と対応策を明らかにし、速やかに是正の計画を策定すること。</li> </ul>
課題・リスク管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ プロジェクト計画時に抽出したリスクを管理し、リスクが顕在化した場合は課題として管理すること。</li> <li>➤ 受託者は、リスクが実際に発生したかどうかを監視し、リスクが実際に発生した場合には、本市に報告すること。</li> <li>➤ 課題発生時には、速やかに対応策を明らかにし、本市と協議のうえ、対応方法を確定し、課題が解決するまで継続的に管理すること。</li> </ul>
変更管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 仕様確定後に仕様変更の必要が生じた場合には、受託者は、その影響範囲及び対応に必要な工数等を識別したうえで、変更管理ミーティングを開催し、本市と協議のうえ、対応方針を確定すること。</li> </ul>

受託者は、定期報告の会議体として、定例報告会、作業部会等の定例会を設置することとし、必要な報告書類を会議開催までに完備しつつ、会議終了後、会議内容を書面で本市へ報告し、その了承を得るものとする。なお、規定した以外の会議が必要な場合は、適宜必要な会議を開催すること。

会議体	実施内容
定例報告会	<p><b>【目的】</b> プロジェクト計画策定時に定義したプロジェクト管理方法に基づくプロジェクト管理を実施すること。</p> <p><b>【参加者】</b> 本市、受託者（プロジェクト統括責任者、各領域責任者）</p> <p><b>【開催サイクル】</b> 定期的に開催することとし、詳細は本市との協議のうえ、決定すること。 本システムの構築の定例報告会は週に1回程度、管理者層への報告は、月1回程度と想定するが、必要に応じて適宜開催すること。</p> <p><b>【報告書類】</b> 進捗報告書、課題管理表、変更管理票、スケジュール、その他必要と思われる報告資料等</p>
各作業部会	<p><b>【目的】</b> 各主管課や他受託者（※）との要件・仕様の調整、進捗管理、課題管理、データ移行等に関する方策・作業内容の検討・調整等を行うこと。</p> <p><b>【参加者】</b></p>

会議体	実施内容
	本市, 受託者 (プロジェクト統括責任者, 各領域責任者, 担当者), 他受託者 (※) 担当者等 <b>【開催サイクル】</b> 定期的に開催することとし, 詳細は本市との協議のうえ決定すること。 <b>【報告書類】</b> 進捗報告書, 課題管理表, 変更管理票, スケジュール, その他必要と思われる報告資料等

※ 他受託者とは, 新システムと情報連携を行うシステムの受託者を指す

### 5.1.3. プロジェクト体制

業務実施にあたり受託者は本業務を確実に履行できる体制を設けることとし, 以下のスキルを持った要員を配置すること。

なお, プロジェクト発足時からの要員変更にあたっては, 必ず本市の了承を得るとともに, 変更後の要員のスキルが前任者と同等以上であることを担保すること。

要求するスキル	スキルの詳細
プロジェクト管理能力を有する者	プロジェクト実施計画を策定し, システムの設計・開発, テスト, システムの評価, プロジェクト間の調整を行い, 生産性及び品質の向上に資する管理能力を有すること。
品質管理能力を有する者	自社の品質管理規準に従い, プロジェクトを離れて第三者的かつ客観的に, プロジェクト全般の品質状況を監査し, 評価・改善する能力を有すること。
Web サイト作成能力を有する者	Web サイト構築の専門知識, オープンシステム開発言語に対する専門知識, 機能設定能力, Web サイト設計能力, Web サイトの評価・改善技術, 障害発生時の対応能力を有すること。
情報セキュリティに関する知識を有する者	製作・運営時を通じて情報セキュリティの適正な管理を実施する者として, 総括責任者や (Web サイトのセキュリティ対策に通じた技術担当の) 窓口担当者等を選定し, 管理組織を整備の上, 情報の漏洩・滅失・き損及び改ざんの防止その重情報の適正な管理のために必要な措置を講じること。
ネットワークに関する知識を有する者	ネットワーク等の専門知識と評価, 改善技術, 全庁のネットワークを理解したうえで, 各セグメント内の最適なネットワーク構成の設計・構築・運用に係る技術及び技術コンサルティング能力を有すること。

## 5.2. テスト要件

### 5.2.1. テスト方法

受託者は, 開発テスト仕様書に基づいて, 「ホームページが本市要求どおりに動作すること」及び「様々なブラウザで正常に表示されること」を中心にテストを実施すること。

上記テスト後, 本市と作業体制, 履行場所等について協議のうえ, 受入テストを実施し, 本市の承認を得ること。なお, 受入テストにおいて発生した障害は, 必要に応じて本市へ報告を行った後, 復旧作業及び原因の解明, 対策を行うこと。また, 性能面での問題が発生した場合には, チューニングを施すこと。

### 5.2.2. テストデータ

各テストで使用するテストデータに関しては, 受託者においてテストデータを準備すること。

なお, 実データが必要な場合には別途本市と協議すること。

### 5.3. 開発工程における成果物

開発工程と成果物について、以下に提示する。スケジュールは当該一覧の「納入時期」を目安とし、原則次工程着手前に現工程の成果物について作成を行い、承認を得るものとする。

また、納入後1年間は、媒体破損、データ及びプログラム不良による納入物の再作成及び修正を保証できるように、受託者の責任において納入成果物の複製物を保管すること。

なお、保守・運用に係る設計においては、保守・運用に係る各種手順書やマニュアル等を作成すること。本件受託者自身が運用・保守を実施することに加え、運用保守の1次対応については、本件受託者以外の事業者によって実施することも想定し、運用保守の品質を担保できるように作業については全て手順化すること。また、保守・運用に係る設計の成果物は、別受託者の調達における基礎資料として準用する可能性があるため、予め了承すること。

工程	成果物	内容	納入時期
プロジェクト計画	プロジェクト計画書	開発プロジェクトを運営するための計画書	契約締結後1カ月以内
設計	システム設計書	要件を元に、UI やコンテンツ機能等の設計内容をまとめたもの	設計終了時
	システム操作マニュアル	システムの操作手順を異動事由別等の処理単位にまとめたもの	運用テスト前
	システム運用マニュアル	システムの運用手順を日次や週次、月次、年次、随時、臨時別等の処理単位にまとめたもの	
	障害対応マニュアル	システム障害が発生した場合のシステム終了手順や再開手順、調査手順、障害対応手順を障害エラー別にまとめたもの	
開発テスト	開発テスト仕様書	開発テストのテスト項目や実施内容をまとめたもの	開発テスト開始前
	開発テスト結果報告書	開発テストの結果をまとめたもの	開発テスト終了時
	セキュリティ実装チェックリスト	セキュリティの実装に関する項目のチェックリスト	開発テスト終了時
	ホームページ構成資源	開発したページ (HTML 等) やそれらを構成するコンテンツ等	本番稼働後
プロジェクト管理	議事録 連絡票 進捗管理表 品質管理表 課題管理表 障害管理表 変更要求管理表 リスク管理表	開発プロジェクトを運営するための各種書類	プロジェクト実施中 随時

#### 5.3.1. 納品形態及び部数

書面及び電子でそれぞれ1部納入すること。

なお、電子データ提出時には、発注者が指定する納品書を合わせて提出するものとする。また、成果品作成完了時点で最新のウイルスに対応したウイルス対策ソフトによりチェックを行い、使用し

たウイルス対策ソフト,チェックを実施した日付を明示した上で納品すること。

### 5.3.2. 納入場所

本市が指定する場所とする。

## 6. その他留意事項

### 6.1. 業務の引き継ぎに関する事項

本業務の契約履行期間の満了,全部もしくは一部の解除,またはその他契約の終了事由の如何を問わず,本業務が終了となる場合には,受託者は本市の指示のもと,本業務終了日までに本市が継続して本業務を遂行できるよう必要な措置を講じるため,業務引き継ぎに伴うシステム移行等に必要となる構成要素(ページやコンテンツ等)を円滑に提供できるようにすること。なお,移行用のページやコンテンツ等の提供に係る費用は保守運用契約に含まれるものとし,新たな費用は発生しないものとして取り扱うこと。

### 6.2. データ消去に関する事項

データを消去する際は,ISO27001に準拠してデータを復元できないように電子的に完全に消去又は廃棄すること。またデータ消去について第三者の監査機関による監査を受けた内容を提供することが可能であること。

### 6.3. 著作権の取扱い

ホームページで写真,画像,音楽等の素材を利用する場合や文章の引用を行う場合は,著作権,意匠権,肖像権等について,十分に配慮すること。

### 6.4. 情報セキュリティ不正に関する調査対応

情報セキュリティに関する不正が見つかった場合,追跡調査や立入検査等により原因を調査・排除できる仕組みや体制を整備すること。

※「安全なウェブサイトの作り方 改訂第7版」を参照しながらチェックを実施してください。

## ■ ウェブアプリケーションのセキュリティ実装 チェックリスト (1/3)

No	脆弱性の種類	対策の性質	チェック	実施項目	解説
1	SQLインジェクション	根本的解決	※ □ 対応済 □ 未対策 □ 対応不要	□ SQL文の組み立ては全てプレースホルダで実装する。	1-(i)-a
				□ SQL文の構成を文字列連結により行う場合は、アプリケーションの変数をSQL文のリテラルとして正しく構成する。	1-(i)-b
		根本的解決	□ 対応済 □ 未対策 □ 対応不要	ウェブアプリケーションに渡されるパラメータにSQL文を直接指定しない。	1-(ii)
		保険的対策	□ 対応済 □ 未対策 □ 対応不要	エラーメッセージをそのままブラウザに表示しない。	1-(iii)
		保険的対策	□ 対応済 □ 未対策 □ 対応不要	データベースアカウントに適切な権限を与える。	1-(iv)
2	OSコマンド・インジェクション	根本的解決	□ 対応済 □ 未対策 □ 対応不要	□ シェルを起動できる言語機能の利用を避ける。	2-(i)
		保険的対策	□ 対応済 □ 未対策 □ 対応不要	□ シェルを起動できる言語機能を利用する場合は、その引数を構成する全ての変数に対してチェックを行い、あらかじめ許可した処理のみを実行する。	2-(ii)
3	パス名パラメータの未チェック ／ディレクトリ・トラバーサル	根本的解決	※ □ 対応済 □ 未対策 □ 対応不要	□ 外部からのパラメータでウェブサーバ内のファイル名を直接指定する実装を避ける。	3-(i)-a
				□ ファイルを開く際は、固定のディレクトリを指定し、かつファイル名にディレクトリ名が含まれないようにする。	3-(i)-b
		保険的対策	□ 対応済 □ 未対策 □ 対応不要	ウェブサーバ内のファイルへのアクセス権限の設定を正しく管理する。	3-(ii)
		保険的対策	□ 対応済 □ 未対策 □ 対応不要	ファイル名のチェックを行う。	3-(iii)
4	セッション管理の不備	根本的解決	□ 対応済 □ 未対策 □ 対応不要	セッションIDを推測が困難なものにする。	4-(i)
		根本的解決	□ 対応済 □ 未対策 □ 対応不要	セッションIDをURLパラメータに格納しない。	4-(ii)
		根本的解決	□ 対応済 □ 未対策 □ 対応不要	HTTPS通信で利用するCookieにはsecure属性を加える。	4-(iii)
		根本的解決	※ □ 対応済 □ 未対策 □ 対応不要	□ ログイン成功後に、新しくセッションを開始する。	4-(iv)-a
				□ ログイン成功後に、既存のセッションIDとは別に秘密情報を発行し、ページの遷移ごとにその値を確認する。	4-(iv)-b
		保険的対策	□ 対応済 □ 未対策 □ 対応不要	セッションIDを固定値にしない。	4-(v)
保険的対策	□ 対応済 □ 未対策 □ 対応不要	セッションIDをCookieにセットする場合、有効期限の設定に注意する。	4-(vi)		

※ このチェック項目の「対応済」のチェックは、実施項目のいずれかを実施した場合にチェックします。

## ■ ウェブアプリケーションのセキュリティ実装 チェックリスト (2/3)

No	脆弱性の種類	対策の性質	チェック	実施項目	解説	
5	クロスサイト・スクリプティング	HTMLテキストの入力を許可しない場合の対策	根本的解決	<input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 未対策 <input type="checkbox"/> 対応不要	ウェブページに出力する全ての要素に対して、エスケープ処理を施す。	5-(i)
			根本的解決	<input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 未対策 <input type="checkbox"/> 対応不要	URLを出力するときは、「http://」や「https://」で始まるURLのみを許可する。	5-(ii)
			根本的解決	<input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 未対策 <input type="checkbox"/> 対応不要	<script>...</script> 要素の内容を動的に生成しない。	5-(iii)
			根本的解決	<input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 未対策 <input type="checkbox"/> 対応不要	スタイルシートを任意のサイトから取り込めるようにしない。	5-(iv)
			保険的対策	<input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 未対策 <input type="checkbox"/> 対応不要	入力値の内容チェックを行う。	5-(v)
		HTMLテキストの入力を許可する場合の対策	根本的解決	<input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 未対策 <input type="checkbox"/> 対応不要	入力されたHTMLテキストから構文解析木を作成し、スクリプトを含まない必要な要素のみを抽出する。	5-(vi)
			保険的対策	<input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 未対策 <input type="checkbox"/> 対応不要	入力されたHTMLテキストから、スクリプトに該当する文字列を排除する。	5-(vii)
		全てのウェブアプリケーションに共通の対策	根本的解決	<input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 未対策 <input type="checkbox"/> 対応不要	HTTPレスポンスヘッダのContent-Typeフィールドに文字コード(charset)の指定を行う。	5-(viii)
			保険的対策	<input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 未対策 <input type="checkbox"/> 対応不要	Cookie情報の漏えい対策として、発行するCookieにHttpOnly属性を加え、TRACEメソッドを無効化する。	5-(ix)
			保険的対策	<input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 未対策 <input type="checkbox"/> 対応不要	クロスサイト・スクリプティングの潜在的な脆弱性対策として有効なブラウザの機能を有効にするレスポンスヘッダを返す。	5-(x)
6	CSRF (クロスサイト・リクエスト・フォージェリ)	根本的解決	※ <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 未対策 <input type="checkbox"/> 対応不要	<input type="checkbox"/> 処理を実行するページを POST メソッドでアクセスするようにし、その「hidden パラメータ」に秘密情報が挿入されるよう、前のページを自動生成して、実行ページではその値が正しい場合のみ処理を実行する。	6-(i)-a	
				<input type="checkbox"/> 処理を実行する直前のページで再度パスワードの入力を求め、実行ページでは、再度入力されたパスワードが正しい場合のみ処理を実行する。	6-(i)-b	
				<input type="checkbox"/> Refererが正しいリンク元かを確認し、正しい場合のみ処理を実行する。	6-(i)-c	
		保険的対策	<input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 未対策 <input type="checkbox"/> 対応不要	重要な操作を行った際に、その旨を登録済みのメールアドレスに自動送信する。	6-(ii)	
7	HTTPヘッダ・インジェクション	根本的解決	※ <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 未対策 <input type="checkbox"/> 対応不要	<input type="checkbox"/> ヘッダの出力を直接行わず、ウェブアプリケーションの実行環境や言語に用意されているヘッダ出力用APIを使用する。	7-(i)-a	
				<input type="checkbox"/> 改行コードを適切に処理するヘッダ出力用APIを利用できない場合は、改行を許可しないよう、開発者自身で適切な処理を実装する。	7-(i)-b	
		保険的対策	<input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 未対策 <input type="checkbox"/> 対応不要	外部からの入力の全てについて、改行コードを削除する。	7-(ii)	

※ このチェック項目の「対応済」のチェックは、実施項目のいずれかを実施した場合にチェックします。

## ■ ウェブアプリケーションのセキュリティ実装 チェックリスト (3/3)

No	脆弱性の種類	対策の性質	チェック	実施項目	解説
8	メールヘッダ・インジェクション	根本的解決	※ <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 未対策 <input type="checkbox"/> 対応不要	<input type="checkbox"/> メールヘッダを固定値にして、外部からの入力はずべてメール本文に出力する。	8-(i)-a
				<input type="checkbox"/> ウェブアプリケーションの実行環境や言語に用意されているメール送信用APIを使用する(8-(i))を採用できない場合)。	8-(i)-b
		根本的解決	<input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 未対策 <input type="checkbox"/> 対応不要	HTMLで宛先を指定しない。	8-(ii)
		保険的対策	<input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 未対策 <input type="checkbox"/> 対応不要	外部からの入力の全てについて、改行コードを削除する。	8-(iii)
9	クリックジャッキング	根本的解決	※ <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 未対策 <input type="checkbox"/> 対応不要	<input type="checkbox"/> HTTPレスポンスヘッダに、X-Frame-Optionsヘッダフィールドを出力し、他ドメインのサイトからのframe要素やiframe要素による読み込みを制限する。	9-(i)-a
				<input type="checkbox"/> 処理を実行する直前のページで再度パスワードの入力を求め、実行ページでは、再度入力されたパスワードが正しい場合のみ処理を実行する。	9-(i)-b
		保険的対策	<input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 未対策 <input type="checkbox"/> 対応不要	重要な処理は、一連の操作をマウスのみで実行できないようにする。	9-(ii)
10	バッファオーバーフロー	根本的解決	※ <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 未対策 <input type="checkbox"/> 対応不要	<input type="checkbox"/> 直接メモリにアクセスできない言語で記述する。	10-(i)-a
				<input type="checkbox"/> 直接メモリにアクセスできる言語で記述する部分を最小限にする。	10-(i)-b
		根本的解決	<input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 未対策 <input type="checkbox"/> 対応不要	脆弱性が修正されたバージョンのライブラリを使用する。	10-(ii)
11	アクセス制御や認可制御の欠落	根本的解決	<input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 未対策 <input type="checkbox"/> 対応不要	アクセス制御機能による防御措置が必要とされるウェブサイトには、パスワード等の秘密情報の入力を必要とする認証機能を設ける。	11-(i)
		根本的解決	<input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 未対策 <input type="checkbox"/> 対応不要	認証機能に加えて認可制御の処理を実装し、ログイン中の利用者が他人になりすましてアクセスできないようにする。	11-(ii)

※ このチェック項目の「対応済」のチェックは、実施項目のいずれかを実施した場合にチェックします。



ホームページサーバ等確認チェックリスト(第2版)

ホームページタイトル	
URL(トップページ)	
所管局・部・課	
外部委託先事業者名	
担当者連絡先	

回答結果については取扱注意

※ 回答が「いいえ」になっている場合は、危険な状態です。早急に改善をお願いします。  
 ※ 調査結果は所管課で確認し、回答内容はセキュリティ情報のため関係者以外には秘密にしてください。

※選択肢は、プルダウンメニューから選択してください

チェック項目	説明	
<b>A. サーバで使用しているOS・ミドルウェア・ウェブアプリケーションの脆弱性の確認</b> (WAFやIPS等により脆弱性への攻撃に対する対応を別途行っている場合は、「はい」と回答しても構いません。)		
1	サーバで使用しているOSにセキュリティパッチを速やかに適用しているか(重要) (「いいえの場合」は非常に非常に危険です。)	OSの脆弱性を利用することにより、管理者権限を奪われ、サーバを乗っ取られたり、不正なプログラムを実行されます。セキュリティパッチは必ず実行するようにしてください。
2	サーバで使用しているミドルウェア(OS上で動作し、アプリケーションソフトに対してOSよりも高度で具体的な機能を提供するソフトウェア。OSとアプリケーションソフトの中間的な性格を持っている。)に速やかにセキュリティパッチを適用したり最新版にアップデートしているか(重要) (「いいえの場合」は危険です。)	ミドルウェアにも脆弱性が存在しており、脆弱性を放置しているとそれを利用したウェブサイトの改ざん等が行われる可能性が高まります。速やかにセキュリティパッチを実行したり、最新版へのアップデートを行ってください。 ※ミドルウェアの例 Struts,JBoss,ColdFusion,Tomcat,WebSphere,WebLogic,Joomla!,Apache HTTP Server,IS
3	サーバで使用しているアプリケーションソフトに速やかにセキュリティパッチを適用したり最新版にアップデートしているか(重要) (「いいえの場合」は非常に危険です。)	アプリケーションソフトにも脆弱性が存在しており、脆弱性を放置しているとそれを利用したウェブサイトの改ざん等が行われる可能性が高まります。速やかにセキュリティパッチを実行したり、最新版へのアップデートを行ってください。
4～14については、別紙「ウェブアプリケーションのセキュリティ実装 チェックリスト(IPA作成)」でチェックを実施した上でご回答ください。 (別紙のチェックリストで未対策の項目にチェックが入っている場合に、いいえと回答してください) ウェブアプリケーションを使用していない場合は、該当なしと回答してください。		
4	SQLインジェクションに対する対策はできているか	「SQLインジェクション」とは、データベースと連携したウェブアプリケーションにおいて、SQL文(データベースへの命令文)の組み立て方法に問題があり、それを利用して不正にデータベースを利用しようとする攻撃のことを指します。情報漏えいやデータベースの改ざんの他、不正ログイン等が行われる可能性があります。
5	OSコマンドインジェクションに対する対策はできているか	「OSコマンドインジェクション」とは、外部からウェブサイトへOSを操作するコマンドを含んだ要求を送ることにより、OSを不正に操作しようとする攻撃のことを指します。情報漏えいやデータベースの改ざんの他、不正ログインやそのサーバを踏み台とした他のサーバへの攻撃等が行われる可能性があります。
6	ディレクトリトラバーサルに対する対策はできているか	「ディレクトリトラバーサル」とは、パラメータにファイル名を指定しているウェブアプリケーションで、ファイル名指定の実装に問題がある場合、それを利用して外部から任意のファイルを指定し、アプリケーションが意図しない操作をさせる攻撃のことを指します。情報漏えいやデータベースの改ざん等が行われる可能性があります。
7	セッション管理の不備に対する対策はできているか	「セッション管理の不備」とは、セッションID(利用者を識別するための情報)を発行し、セッション管理を行っているウェブアプリケーションで、セッション管理に問題がある場合、それを利用してログイン中の利用者になりすます攻撃のことを指します。情報漏えいやデータの改ざん等が行われる可能性があります。
8	クロスサイト・スクリプティングに対する対策はできているか	「クロスサイト・スクリプティング」とは、利用者の入力情報等を基にウェブページを作成するウェブアプリケーションで、ウェブページへの出力処理に問題がある場合、それを利用してウェブページへ不正なスクリプト(小さなプログラム)を埋め込む攻撃のことを指します。ウェブサイト上への偽のページの作成やCookieの窃取等が行われる可能性があります。
9	クロスサイト・リクエスト・フォージェリに対する対策はできているか	「クロスサイト・リクエスト・フォージェリ」とは、ログイン機能の存在するウェブサイトで、ログインした利用者からのリクエストについて、その利用者が意図したリクエストであるかどうかを識別する仕組みを持たない場合、それを利用して利用者が予期しない処理を実行させる攻撃のことを指します。情報漏えいやデータの改ざん等が行われる可能性があります。
10	HTTPヘッダ・インジェクションに対する対策はできているか	「HTTPヘッダ・インジェクション」とは、HTTPレスポンスヘッダの出力処理に問題があるウェブアプリケーションで、攻撃者が、レスポンス内容に任意のヘッダフィールドを追加したり、任意のボディを作成したり、複数のレスポンスを作り出すような攻撃のことを指します。ウェブサイト上への偽のページの作成やCookieの窃取等が行われる可能性があります。
11	メールヘッダ・インジェクションに対する対策はできているか	「メールヘッダ・インジェクション」とは、利用者が入力した内容を、特定のメールアドレスに送信する機能を持つウェブアプリケーションに問題がある場合、攻撃者が、任意のメールアドレスを指定してメールを送信させる攻撃のことを指します。迷惑メール等の送信が行われる可能性があります。
12	クリックジャッキングに対する対策はできているか	「クリックジャッキング」とは、ログインしている利用者のみが使用可能な機能がマウス操作のみで使用可能な場合、細工された外部サイトを閲覧し操作することにより、利用者が誤操作し、意図しない機能を実行させる攻撃のことを指します。ログイン後の利用者のみが利用可能なサービスの悪用や設定の変更が行われる可能性があります。
13	バッファオーバーフローに対する対策はできているか	「バッファオーバーフロー」とは、プログラムが入力されたデータを適切に扱わない場合、プログラムが確保したメモリの領域を超えて領域外のメモリが上書きされ、意図しないコードを実行してしまう攻撃のことを指します。プログラムの異常終了や任意のプログラムが実行されウイルス感染等が行われる可能性があります。
14	アクセス制御や認可制御の欠落に対する対策はできているか	「アクセス制御や認可制御の欠落」とは、パスワード等の秘密情報の入力が必要とする認証機能やログイン中の利用者が他人になりすましてアクセスできないようにする機能が必要であるにも関わらず実装されていないことを指します。情報漏えいやデータの改ざん等が行われる可能性があります。

チェック項目	説明
<b>B. 更新のためのアカウント・パスワード等の確認</b>	
15 更新方法にFTP (File Transfer Protocol) を使用していないか (重要) (FTPを使用している場合= [いいえの場合] は非常に危険です。)	FTP(ファイル転送プロトコル)は、ホームページデータをサーバにアップロードする際に、よく使用される仕組みですが、Gumblarなどウイルスに対して脆弱性があります。従来はこの仕組みが主流でしたが、項目16のとおり、できるだけ早く移行するかwebサービスの見直しをしてください。
16 更新方法にFTPを使用している場合、SFTP(Secure Copy Protocol)、SCP(SSSH File Transfer Protocol) その他暗号化による方法への移行ができるか	FTPは、データを暗号化せずに通信するため、IDやパスワードを盗まれる恐れがあります。SFTPやSCPの仕組みはデータを暗号化して通信するため、これらのリスクを低減できます。暗号化が困難な場合は、回線を通じて画面更新をせず、媒体を使う運用方法も考えられます。
17 FTPやSFTP、SSH等を使用している場合、ID、パスワードを定期的(6ヶ月に1回以上)に変更しているか	ID・パスワードを盗まれるリスクを考慮して、定期的(6ヶ月に1回以上)に変更することが推奨されます。
18 FTPやSFTP、SSH等を使用している場合、パスワードは、8桁以上の複雑なもの(少なくとも英数小文字大文字混合)にしているか	辞書攻撃による不正アクセスを防ぐためにも、複雑なパスワードにすることが推奨されます。
19 FTPやSFTP、SSH等を使用している場合、必要最低限のIDしか利用できないようにしているか	不要なIDが残されていると、それを利用して不正アクセスが行われることが考えられます。定期的に必要なIDをチェックし、削除することを推奨します。
<b>C. その他項目の確認</b>	
20 ウイルス対策ソフトの定義ファイルは最新状態か	ウイルス対策ソフトの定義ファイルの適用日付を確認してください。
21 サーバに接続(更新作業)できる発信元IPアドレスの制限はかけているか(重要) (制限していない場合= [いいえの場合] は非常に危険です。)	発信元IPアドレスを制限しないと、FTPのIP・パスワードが漏えいすることで、世界中からホームページを改ざんされる恐れがあります。必ず発信元IPアドレス制限は実施してください。但し、レンタルサーバ等を利用している場合でこの方法が技術的に困難な場合は、他の方法(特に項番14)でセキュリティを確保するようにして下さい。
22 サーバにおいて、必要のないサービスを稼働させていないか、また、必要なサービスであっても、それに対するアクセス権限を必要最低限に設定しているか	ウェブサイト運営に必要なサービスがウェブサーバ上で稼働している場合、そのサービスに対する管理が十分でなく、脆弱性が存在するバージョンをそのまま利用している可能性があるため、不要なサービスは稼働させず、必要最低限のサービスのみ稼働させるようにして下さい。
23 ホームページの改ざんチェックができる仕組みを導入しているかもしくはサーバに不審なアクセスが行われていないか、また、不正なフォルダやファイル等が作成されていないか定期的に確認(1日1回以上)しているか	ホームページの改ざんチェックサービスを利用するなど、改ざんを検知できる仕組みが整っていることが望ましいですが、少なくとも、改ざんされていないか定期的に確認を行うことは必要です。
24 公開しているウェブサイトのデータを定期的にバックアップしているか	ウェブサイトのデータのバックアップがないと、サイトを復旧させる際に、再度データの作成から始めていかないといけなくなります。定期的に、ウェブサイトのデータのバックアップを取得しておきましょう。
25 ウェブサイト等の復旧手順が策定され、定期的に手順の確認を行っているか	事件・事故が発生した場合に備えて、復旧手順を策定し、手順を確認しておくことが必要です。
26 ウェブサイト等のドメインはLGドメイン(~.lg.jp)を利用しているか。	LGドメイン以外のドメイン(.com、.net、.jpなど)は誰でも取得できるので、ホームページを閉鎖した後に第三者に取得され賭博やアダルトサイト等に利用される事案が発生しています。他のドメインを利用しなければいけない理由が特にならない場合は、LGドメインを取得してください。

機能名称	機能の定義
<b>コンテンツマネジメントシステム</b>	
<b>1.1. コンテンツ管理</b>	
1.1.1.	テンプレートによる入力フォーム等を用いた画面操作により、ページレイアウトやコンテンツ（文章、画像、動画、表等）を任意に管理（登録・修正・削除・照会）できること。
1.1.2.	必須項目、文字数制限の指定、チェックボックス・ラジオボタン・リストボックス等の選択タイプを設定できること。
1.1.3.	各コンテンツを構造的に管理（登録・修正・削除・照会）できること。
1.1.4.	各コンテンツにリンクを対応付けできること。
1.1.5.	HTML5/XHTML5形式でホームページを作成、インターネット公開できること。
1.1.6.	CSSを管理（登録・修正・削除・照会）できること。
1.1.7.	本CMS以外で作成したHTMLファイルを管理（登録・修正・削除・照会）できること。
1.1.8.	カテゴリ（コンテンツの分類）を管理（登録・修正・削除）できること。
1.1.9.	作成済みコンテンツに対して、カテゴリを指定して検索（全文、キーワード等）ができること。
1.1.10.	システム管理者がWebサイトのデータ更新を行う場合には、SFTP/FTPS、またはhttpsを用いること。
<b>1.2. ナビゲーション管理</b>	
1.2.1.	グローバルナビゲーション機能を有すること。
1.2.2.	ローカルナビゲーション（同一階層内のコンテンツ情報を示すナビゲーション）機能を有すること。
1.2.3.	パンくずナビゲーション機能を有すること。
<b>1.3. 階層管理</b>	
1.3.1.	サイトの階層は3階層以上とすること。
<b>1.4. テンプレート管理</b>	
1.4.1.	テンプレートを管理（登録・修正・削除・照会）できること。
1.4.2.	テンプレートに沿って入力することにより、コンテンツの作成ができること。
<b>1.5. コンテンツ公開管理</b>	
1.5.1.	公開予定のコンテンツを管理（登録・修正・削除・照会）できること。
1.5.2.	公開予定のコンテンツに対する、公開に関する承認を実施できること。
1.5.3.	公開予定のコンテンツを、任意にインターネット上に公開できること。
1.5.4.	公開予定のコンテンツをプレビュー表示できること。
1.5.5.	公開するコンテンツを世代管理できること。
<b>1.6. 言語管理</b>	
1.6.1.	複数の言語（英語、〇〇語、〇〇語）でホームページを管理（登録・修正・削除・照会）できること。
1.6.2.	日本語以外の言語の場合に、翻訳表示ができること。
<b>1.7. QA・FAQ管理</b>	
1.7.1.	Q & A（質問・回答）を管理（登録・修正・削除・照会）できること。
1.7.2.	FAQ（よくある質問・回答）を管理（登録・修正・削除・照会）できること。

## 別紙4：広報コンテンツ構成案

1. トップページ（タイトルとイメージ）（Invest in Kobe のタイトルロゴは本市が提供）
2. What's NEW、または Topics 等の最新情報（イベント含む）
3. 神戸市の紹介（About Us）
  - ・神戸市の概要（位置（日本地図）、・規模（人口等）・イメージ）
  - ・国際的なビジネス都市（大手外資系が立地するビジネスの適地としての魅力。）
  - ・好立地（国内第2の経済圏である関西の中心、東京・大阪・世界へのアクセス図、賃料の都市間比較等）
  - ・生活環境（住みやすさ指標（東京との比較、外国人学校等、メディア等ランキング）
4. 神戸の産業
  - ・カテゴリー：医療産業、IT産業、新エネルギー産業、航空産業、海洋船舶産業、食品産業、生活産業（ファッション産業）を予定
  - （令和5年(2023年)度に追加予定：各産業における代表的な市内企業(合計約10社)の紹介)
5. 支援施策
  - ・大企業・中小企業向け…既存の海外向け企業誘致ホームページ参照  
(<https://global.kobe-investment.jp/english/>)
  - ・スタートアップ企業、外国人起業家向け…スタートアップビザや着地支援等の情報
6. 進出企業の情報（令和5年(2023年)度に追加予定）  
（令和5年(2023年)度に追加予定：進出企業の紹介（企業ロゴ、社名、リンク、簡単な紹介）（約10社）
7. 海外拠点の紹介
  - ・シアトル、フランス（兵庫県）、ドイツ、天津
  - ・各拠点の紹介テキスト・写真、LinkedIn・Facebook等のSNSリンクを含む
8. 問い合わせフォーム
9. 外部ホームページへのリンク
  - ・神戸市ホームページ（Global site）  
(<https://www.city.kobe.lg.jp/foreignlanguage/index.html>)
  - ・神戸医療産業都市ホームページ（英語）  
(<https://www.city.kobe.lg.jp/foreignlanguage/index.html>)

- ・その他、ホームページの構成上必要と認められる本市関連施策のホームページ

【参考：令和5年(2023年)度以降に想定されるコンテンツ拡充項目】

- ・上記で令和5年(2023年)度に追加予定とした市内企業及び進出企業の情報
- ・構造図の中で新たに提案した事項
- ・神戸市の新たな支援施策などの情報
- ・既存コンテンツの更新・編集（年度途中の制度改正や数値の更新等）
- ・神戸市の既存の海外向け企業誘致関連ホームページ3件（令和5年(2023年)度廃止し本業務で新設するホームページに統合予定。下記①～③）の中で統合すべき掲載要素
  - ① 外資系企業誘致ホームページ (<https://global.kobe-investment.jp/english/>)
  - ② シアトル事務所スタートアップ誘致ホームページ (<https://kobestartup.com/>)
  - ③ Kobe Startup Hub ホームページ (<https://kobestartuphub.com/>)
- ・その他、市と協議して必要と認められるもの